

裡

: in a dream

うち

ソムニウムの裡

Satan/Beelzebub
Megido72
unofficial fanbook #1
presented by Puerto



ソムニウムの裡

■10章2節実装時点での情報を基に書いています。

■成血等の列艦描写を含みます。

■この本は、個人が趣味で制作した非公式同人誌です。

©2015 艦これ関係各社様等とは一切関係ございません。





…縛っていて
くれたのか

そりや、
ベルが寝てる
からな

そうか

…なあ
サタン

近頃、オマエは
あまりノギド体に
戻らなくなったな

たしかに、
あのときは
そう思ってた
んだが…

いいのか？

「カンが鈍る」
んだらう

あり？

あー…

…今は、
いい



戦争
したくねえ
わけじゃ
ねえが

…今は、
オマエと
こうしてるほうが
「良い」んだ

この感覚を、
もつと
追いかけていたいと思う

…どうだ



…とても
嬉しいよ

私も
同じ気持ちだ



……
ああ



これからも、
オマエとこうやって
過ごしていこう



おう

…だが、
できれば
起きていてくれ

眠っている
オマエも
悪くはねえが、
起きてるオマエの
ほうがいい



ああ
善処しよう

…それでも
私が眠っていたら

オマエが
起こしてくれ



とんでもない
ことです

すまないな
ほかに強目のある
オマエを、
私の勝手に
村と合わせている

私一人では
手が回らない
のだ



ベルゼブフ様



…彼らの
様子は？



変わりありません
大人しいものです

ほとんど
手も
かからない

……そうか

ベルゼブブ様、
簡潔ながら……

あれらをこのまま
ここに
閉じ込めていても、
何の役にも立ちません

無駄に
水や肉を
消費するだけです

戦争に出しても
どうにも
なりませんし……

ベルゼブブ様のお考え……
メギドラルでの
グイータ体の普及に向けて、

あれらを使って
グイータの
生態研究でも行っっては？

ただ
閉じ込めておくより、
よっぽど
有意義でしょう

……その考え自体は
理解できる



姿を
模倣しているながら、
我々は
彼らのことを
よく知らない

研究すれば、
なんらかの成果は
約束されるだろう

だが…



ヴァイガルド
さえ、
「彼ら」の世界とは
言えない



…ここにいる
ヴァイタは…

メギドの
過激的な
行為の果てに、
メギドが
「目的」もなく
作り出して
しまったものだ



彼らは
帰るべき世界を
持たないまま

この異世界で
一生を
終えるのだ

こちらの都合で
彼らにさらに
意害を加えるのは！

…道理に
反すると、
私は考える

…失礼
いたしました

今後とも
彼らを
頼む

気にする
ことはない
メギドとしては
自然な発想
だろう

はい



フツ
ツツ
ン





私が、それを
獲得したいと
思っているなど



先日は
世話になった

改めて
礼を言う



ルシファー



勿論だ
うまく
やっているよ

本意ではなかったが、
あのとき戦争になって
かえってよかった
とも言える

良い結論が
得られたの
だからな



構わない
それが
私の役割だ

あれから
サタンとは
戦争してないな？



「遺跡を破壊しておいて、それかどうかと思うが！」

相互理解は重要なものだ

私の目的に阻らしても同様に

「特別な共感性」とは、「平穏」だけに身を置いては獲得できないものなのかもしれない



だがオマエの言うとおりに今後はもっと慎重に進めていくつもりだ

「私の目的は多くのメグドがグイータ体を取ることを前提としている



ふむ 強烈な感情のようだからな

平坦な道ばかりではないのかもしれない

そうだろう



「そういう計画を立てたのだからな



まあ、私は今も
ヴィータ体の普及には
多くの問題があると
考えているし、

ヴィータ体を取る
予定もないが…

わかって
いる

無理には
言わないさ



うむ

秩序を乱すのは
罪だが、
オマエのことを
否定したい
わけではない



なに？

戦争の
予定でも？



いいや



では、
個人的な
ことだろうか

以前、
罪を告白
したような！



…ただ、
また裁定を
頼むかもしれない

そのときは
よろしく頼む



それも、
違う

そうだな…
もつと重大な、
何かだ

…それはまた、
ずいぶんと
抽象的だな

珍しいことだ



わかった
評価に感謝しよう



具体的な
内容については、
今は気に
しないでくれ

…私はオマエを
評価しているのだ
鑑定者



オマエの
真摯な姿勢を、
好ましく思っている



いつも
どおりな

私は
「裁定者」として
裁定を下す

それが
必要であるなら、



ああ

頼りに
しているよ



信頼できる
他者は……
誰も？

オマエは……
今ですと、
一人で
生きてきたのか



に



……そうか



はっ

オレにとって
他者とは、
オレを蔑み、
害してくるだけの
存在だ



……マン

そういう
オマエこそ
どうなんだ



力が金くない
ということば、
交渉にすらならない
ということだからな

無理やり軍団で
働かされることは
あっても

集団行動で
得をしたことなど
一度もない



仲間たちに、
久しく会ってないな

…そして、
なにより
特別な…



いつも
オレの脳内に
勝手に現れるが…

そういう使者が
いるのなら、
そっちに行ったら
どうだ



…
そう
いえば…



それは…

溶けて
しまった



…
うう



?



愛



話をしている
ことだ

や、
オマエと
こみやうで



…ただ、
確実なのは…



お目 参上



は？



最後、
だいたいこの道の
終点だよ…

まったく
わからん

だが…



ハッ!?

ハッ!







だが
会っちゃったら
ベルが騒われるし、
作戦が失敗して
存在するかも
しれない
「敵」を思えば
ほうが困る

もう少しの
辛抱か



「ベルに
会えねえの
つまんねえな

ベルも
寂しがって
っかな



「敵」がいるなら、
見つけ出して
排除する必要がある

それができれば、
俺たち同盟の結束は
より盤石になる

内輪揉みみてえな
時間も終わる



「最近の
ベルの様子は、
明らかに
尋常じゃねえ



.....





ルシファー？

なんでオマエが
この場所を
知ってる

アスモに
聞いたのか？



そうか
なら俺の田舎は
終わったんだな

それで？
成果は

「敵」は
いたのか



…は？









敬服すべき
「母」



自覚が
生まれたよう
なによりだわ



ようやく
手に入れた
んだから、
しっかり使っ
てあげる



これからは
ずっと一緒
あたしのためだけに
働けるのよ



嬉しくって
仕方ない
でしょ？



じゃあ早速頼むけど

アスモデウスを排除して、議会の実権をあなたが握りなさい

そして全てのアンチャーターをこちらのものにする



これは
「あたしの意思」よ



答えなさい



もちろん最優先で
叶えてくれる
わよね？

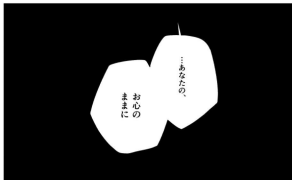


あたしの
かわいい
ベルゼブフ



……ガッ











…いくら
現実じゃねえ
ったって、
オマエがそこまで
動揺するなんぞ！
…一体、
何を見てるんだ



ただの、私の
グイータ体の
欠点だよ



…やはり、一度
目が覚めると、
内容は悪い出せない
のだが…



…なあ



所詮、夢さ



.....



本番にばかり
心当たりは
ねぇのか



元夢見のメギドに
教えてもらった
ことがある

ヴィータは、
覚醒時に受けた
ストレスが
悪夢となって
反映されることが
あるらしい



.....



……強いて
言うならば、





あとがき

ソムニウム(Somnium)は、ラテン語で「夢」を意味する単語です。
自分が読みたいものをいかに購入できなかったというのもありますが、
僕などの感情にフォーカスした構成に仕上がったこと、
さらにペーパーズ種の不安定さや、「夢」のあやふやな感じの表現を兼ねて、
詩集例をペーパーズの構成にしてみました。
実際の質感は想像してくださいという感じですが、本編で想像を想像に代えてくれると願っています。

ここまで読んでくださり、本当にありがとうございます。
ご意見・ご感想等ございましたら、送っていただければ幸いです。

ソムニウムの裡

2022年3月18日発行

Puerto / ミナト

E-mail : puerto.minato91@gmail.com

Twitter : @m_Minato91

印刷 : プリントオンデマンド



感想フォーム(左・お電話 右・WhatsApp)
Webサイト文字のみの印刷も可能です。
詳しくはこちらをご覧ください。

※この本は、個人が趣味で制作した非公式同人誌です。
監修元紙、書保各社様等とは一切関係ございません。
※二次創作等に際限のない方の目に触れないよう配慮をお願い申し上げます。
※特に、無断転載・複写・複製及び、ネットオークション・フリマアプリ等への出品を禁止します。
不要になった場合は破棄してください。



+ + + + +
+ + + + +
+ + + + +
+ + + + +
+ + + + +

Sep. 18, 2022

Goetic Rings 7

Megido72

unofficial fanbook #1

presented by Puerto

